

Energy efficiency NEWS FLASH

(作成: SEAJ エネルギー効率利用専門委員会 独自の見解を含んでおり、内容を保証するものではありません。参考情報としてご利用下さい)

1) 件名

装置動作に於けるエネルギー収支の共通な記述方法について

2) 内容

■装置・ファシリティー省エネ動向

装置のスリープモード付加について半導体メーカーより要請があるが、これの有効性について検討する必要が挙げられた。有効性は装置に大きく依存することの例として半導体試験装置を例に挙げると、『立ち上げ数分、温度安定化 30 分、診断 1 時間(旧タイプは十数時間)』となるので、全停止とし、スリープモードの有効性が得られない。

ここで、スリープモードが無くても、装置動作の共通な記述方法があれば、装置や条件の違いによらずに評価・検討ができるので、共通な記述方法の必要性が提案された。

例えば、電源投入から動作準備完了までの、電力・冷却水等々の必要量・タイミングを記述することができれば、必要な時に必要なエネルギーを与えれば良い。

- ⇒ 各種装置を管理することで工場全体のエネルギーが効率良く使えるのではないか。
- ⇒ 装置メーカーには直接メリットはないかもしれないが、間接的なメリットがあるかもしれない。

3) SEAJコメント

工場の省エネがなかなか進まない理由として、工場長(社長)が旗を振らないとできない。デバイスメーカーにやる気があるか。担当者だけでは動かない。

・・・などの問題点も意見として挙げられた。

- ⇒ この件に関しては、今後も継続して検討を行う。

4) 添付情報・資料

特に無し

5) 関連情報

特に無し

6) その他

特に無し

— 以上 —